

## 情報処理学会平成 8 年度功績賞



山田 博君  
やまだ ひろし

(昭和 4 年 3 月 9 日生)

山田 博君は、富士通、富士通研究所において永年にわたり情報処理システムの研究開発およびその事業化に従事され、数々の優れた成果をあげられました。

とくに、コンピュータアーキテクチャの先駆的な研究ならびに事業化に関しては、パラメトロン式計算機、トランジスタ式計算機、LSI 計算機など主要な大型計算機の開発に従事され、日本のコンピュータ設計技術の質向上に大きく貢献されました。これらの技術により日本のコンピュータの性能が飛躍的に向上し世界的に評価されるようになったことは特筆に値します。

また、情報処理教育の分野では、中京大学教授として後進の育成と指導にあたられ、新しい環境の中で大きな成果をあげられました。

さらに、本学会の理事、人工知能学会の副会長、研究会の委員長、東海支部長などを歴任され学会の発展、若手の指導に尽力され多大な実績を残されました。

このように情報処理分野の研究開発、事業化、国際化、教育など広い範囲にわたる功績は誠に顕著なものがああります。



長尾 真君  
ながお まこと

(昭和 11 年 10 月 4 日生)

長尾 真君は、パターン認識、画像処理、自然言語処理、機械翻訳、さらには電子図書館の分野の研究において数々の優れた業績をあげられました。すなわち、画像処理の分野では世界に先駆けて画像処理にフィードバック機構や黒板モデルなどの人工知能手法を導入し、自然言語処理の分野では複雑な日本語文の解析や文脈解析、さらには機械翻訳などに多くの世界的な業績をあげられました。とくに、アナロジーに基づく機械翻訳の考え方は今日世界の各所で用いられるようになっております。電子図書館システムでも、日次を利用した精度の高い検索方式、多彩な電子読書機能の開発など独創的な成果をあげられました。このような研究と情報処理の教育を通じて多くの人材を育成し、我が国の学界、産業界の発展に貢献されました。

また、本学会の理事、副会長を務められて本学会の発展に尽力されるとともに、国の各種の審議会や委員会の委員などを歴任され、我が国の情報処理分野の発展と国際化に尽くされた功績は誠に顕著なものがああります。



中澤 喜三郎 君  
なかざわ きさぶろう

(昭和 7 年 10 月 2 日生)

中澤喜三郎君は、永年にわたり株式会社日立製作所において大型コンピュータを中心とするハードウェア・システムの研究開発ならびに事業化に携わり、歴史に残るいくつかの名機を世に送り出すなど数多くの先駆的業績をあげられ、我が国の情報処理産業の発展に特筆すべき功績を残されました。なかでも、国産初的大型コンピュータとされる HITAC5020 やその後継機、通産省大型プロジェクト超高性能機やその商用機、M シリーズ機、さらにはスーパーコンピュータ S-810 などの開発で常に先導的役割を果たされ、方式論理・LSI・実装など幅広いハードウェア分野にわたってとくに実用性の高い情報処理技術の我が国における発展に貢献されました。

また、同社を辞してからも、筑波大学ついで電気通信大学の教授として後進の指導・育成に取り組む傍ら、筑波大学 CP-PAX の設計に自らあたるなど第一線の研究開発を精力的に推進してこられました。

さらに、若くして本学会理事を務められ本学会の礎づくりにも尽力されるなど情報処理技術の発展に果たされた役割は顕著なものがああります。